

□ 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。

私は哲学の勉強をして、その成果を発表したり、それを学生に教えたりするのが仕事であるので、年がら年中、勉強ばかりしている。しかし、その勉強はたとえば自分が高校生の時にしていた勉強とは少し が違う。というのも、人に教わったり、指導されたりすることがほとんどないからである。そうした事情もあって、私はあるときから、なぜ人に勉強を教わる必要があるのだろうかと思^aンケンに考えるようになった。

高校生ぐらいまでは、強制力がなくても自発的に一人で勉強をし続けることができる人間は決して多くないので、勉強への取り組みを促^bすことが教師の主たる役割の一つとなる。したがってそこでは先のような問いが問われることはほとんどない。しかしそれは勉強への取り組みをたえず促^cされている彼らにとってこの問いが無意味であることを少しも意味しないのであって、学^dぶ側からすれば、なぜ誰かから教わる必要があるのか、自分一人で勉強しても構わないのではないかという問いは常に問^eい^fうるのである。

最近、この問いについて思うところがあった。私はこのところずっと古典ギリシア語を勉強している。これを教わるために、講義のない土曜日の午前、毎週、語学学校に通っていた。数ヶ月が過ぎたあたりで予習と復習が大変になっていき、仕事との両立が大変であったが、半年を過ぎるとかなりカンも働くようになっていった。毎週学校に通って何かを教わるというのは久しぶりの経験であり、久しぶりであるが故に、「教わる」ということについて考えを深めることができた。

誰かに教わるということについてポイントとなるのは、教^gわる側が、教^hえられてⁱいる明示的な内容以上の何かを受け取っているということである。たとえば、ギリシア語の動詞の活用はギリシア語の教科書に書いてある。(1)、「それを読んで覚えればいいではないか」とも思えるのだが、それは教^jわるという経験を具体的に想像していないが故の感想に過ぎない。

なぜなのかを頑張^kって説明してみよう。A、B、C、D、Eという五項目からなる教科があるとする。生徒は当然、Aから順にEまでの項目を教^lわる。(2)、「AからEまでを教^mえてもらえるなら、誰に、あるいは何に、どうやって教ⁿわってもいい気がする。単に教科書を読むだけでもいいかもしれないし、毎回違う人に教^oわってもいい気がする。

(3)、「実際には、一人の教師から教^pわっていると、単にAからEまでを頭に入れるのとは異なったことが起こる。(4)、「教^qえる側には、その教科に対する態度や精神、やや大袈裟^rに言えば、思想のようなものがあるからだ。五項目のうち、AとCとEに力点を置いて教科を把握^sする教師もいるだろうし、AとDに力点を置く教師もいるだろう。教師ごとに力点が異なるのは、それぞれの教科把握の背後に何らかの思想があり、それに基づいて、「ここがポイントだ」と考えているからだ。

したがって、AからEまでの五項目を教^tわる際、教^uわる側はその五つの内容以上のことを受け取っている。AとCとEに力点を置く^vと全体がこう見えるとか、AとDに力点を置けばEは自然と理解できるとか、そういう把握の仕方を教^wわっているのだ。おそらく、この水準こそ、誰かにもを教^xわるという経験において最も重要なことである。教^yわった複数の内容が相互にいかなる関係を有しているのか。それを十分に把握できた時、人はその内容を体得したということが出来るからである。

教^zえる側の教科に対する思想が高度に磨き上げられていれば、教^{aa}わる側は勉強しやすいであろう。だから、それを磨き上げることが教^{ab}える側の課題になるわけだが、この思想というのは教科の明示的な内容に対する理解を深めていった結果として得られる、いわば副産物^{ac}のようなものであって、それ自体の磨き上げを目指すことは難しい。これはたとえば、仕事をきちんと達成しようと努力することはできても、仕事タツセイの結果として身につく自信^{ad}そのものを得ようとして努力することはできないのと同じである。

こうして考えると、教^{ae}えたり教^{af}わったりするという関係には、ある意味で神秘的なものが関わっているような気がするのであり、それが日常的に行われているということが不思議に思えてくるのである。

(国分功一郎の文による)

問一 a～eの漢字をひらがなに、カタカナを漢字に改めなさい。

問二 (1)～(4)に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア したがって イ ところが ウ ならば エ というのも

問三 に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 見ばえ イ 毛色 ウ 心意気 エ 桁けた

問四 ——— ①「そこ」が示す十二字を抜き出さない。

問五 ——— ②「先のような問い」が示す二十字を抜き出さない。

問六 ——— ③「この問いが無意味であることを少しも意味しない」理由として、ふさわしくないものが一つある。次から選び、記号で答えなさい。

- ア いつも勉強しろと言われている者に、他人から学ぶことの大切さを考えさせることには意味があるから。
- イ 他人から学ぶことを軸にして学んでいる者に、その価値を理解させるのは大事だから。
- ウ 勉強しろと言われ続けている状況と他人から学ぶことを考えるのは別の問題だから。
- エ 自分で学ぶべきだという点に正当性を求める力がなければ、他人から学んでも無駄だから。

問七 ——— ④で、読み手の私たちに伝えたいことを説明しているのは次のどれか。最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア A～Eの五項目が全てだととらえても、「教わる」ことをつかめていたとらえ方以上の付加価値があること。
- イ A～Eの五項目の価値がそれぞれに魅力的であり多様な力を持つていることを教えてくれるということ。
- ウ A～Eの五項目が十分に理解できる道を「教わる」ことをつかみ得るはずであり、他に方法がないということ。
- エ A～Eの五項目を「教わる」ことで、教える者の力量さえも学生生徒によって体得できるということ。

問八 ——— ⑤に、筆者があえて「頑張って」と言い添える理由として、ふさわしくないものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の説明が読み手には届きにくいので。 イ 誤解を生じさせるかもしれないと心配しているので。
- ウ 単純明快な考えとして説明したいので。 エ 説明不要だと信しながら面倒な説明をしなければならないので。

問九 ——— ⑥「副産物のようなもの」の説明として、ふさわしくないものを選び、記号で答えなさい。

- ア 背後にある何らかの思想 イ 「ここがポイントである」ということ
- ウ 把握の仕方 エ 内容が相互にどんな関係であるかということ

問十 ——— ⑦「結果として身につく自信そのものを得ようとして努力することはできない」というのは、どういう意味か。最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自信そのものは自分で獲得するものではなく、自然と与えられていたものであるということ。
- イ 副産物としてしか獲得できないものを主目的にして獲得することなどできないということ。
- ウ 結果が到来しないことには理解できず、また利益の獲得もままならないということ。
- エ 自信そのものを得ようと努力しても無駄なことであり、主目的に向けて努力すれば良いということ。

③ 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。

昔、山城国に一人の沙弥あり。俗とともに囲碁をうつほどに、乞者来たりて法華経一品をよみて、ジキをこふ。沙弥これをききて、かろみわらひそしる。ことさらに口をゆがめ、こゑをなまらかしてまねみよむ。俗これをききて碁をうつことばには、

あなおそろし、あなおそろし

と言ふ。(1) はたびごとに勝つ。(2) は毎度に負く。すなはち居ながら口ゆがみぬ。医師を呼びて薬をもちてつくろへど、つひになほらず。法華経にいはいはく

もしかるみわらふ者あらば、まさに代代に牙齒まばらに欠け醜く、くちびる黒み、鼻ひらみ、手足もとりゆがみ、眼目すが目になるべし

といふ、これなり。靈異記に見えたり。

〔注〕沙弥……ここでは、得度したばかりの未熟な僧。 俗……僧ではない世間普通の人。 乞者……物乞いしながら仏道にはげむ者。

問一——①「ジキ」を漢字に改めたい。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 時期 イ 直 ウ 磁器 エ 食

問二——②「これ」にあたる十字程度の部分を抜き出して答えなさい。

問三——③「からみわらひそしる」とは、どのような行為か。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 囲碁の手を軽んじた。 イ 乞者の出身を小馬鹿にした。
ウ 法華経の内容について信じなかった。 エ 詠み上げられた経をさげすんだ。

問四——④「ことさらに口をゆがめ、こゑをなまらかしてまねみよむ。」について、

(1)これは誰の行為か。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 沙弥 イ 乞者 ウ 世間の人 エ 筆者

(2)この行為は、どのような行為なのか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 法華経の読み方について手本を示した。
イ 読み方の癖を正してやろうとした。
ウ 読み上げた人の特徴をまねてあざ笑っている。
エ 古老の手本となる読み方をわかりやすくまねている。

問五——⑤「あなおそろし」とは、何を恐れているのか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 未熟な僧の軽率さが周囲の反感を買うだろうと思った。
イ 仏道修行する乞者のひたむきな読経を軽んじて災いがあると思った。
ウ ひどく俗っぽい僧侶との囲碁が周囲の人たちから軽蔑されると思った。
エ 法華経の読み上げを軽蔑する行為で役人が自分にも同罪を与えられたと思った。

問六 (1)、(2)に「沙弥」または「俗」を入れなさい。

問七 —— ⑥「すなはち居ながら口ゆがみぬ」ということになった理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 手本を示すためにひどく口をゆがめていたことがその人に定着したから。

イ 碁をうちながらのまねる行為と非難の仕方が「口が悪い」と評されたから。

ウ 人を軽んじ怪異な現象が起こるような悪いことをした報いだから。

エ 遊びほうけて囲碁をして仏道に励もうとしない者への報いだから。

問八 —— ⑦「医師を呼びて薬をもちてつくるへど、つひになほらず」は、読み手に何を伝えようとしているのか。次から選び、記号で答えなさい。

ア それほど重い病が元からあったということ。

イ 天罰があたっても、人にはどうにもできないということ。

ウ 当時の医師の科学的所見もたいした効能はないということ。

エ 経文の効果について人はもっとおそれをなすべきだということ。

問九 —— ⑧「靈異記に見えたり。」というのは、永観二年(984年)十一月に成立したこの作品内部に、先に成立した説話集である『日本靈異記』

にも同じ話が掲載されていると説明をしたものである。あとの問いに答えなさい。(選択肢は(1)、(2)共通です)

(1)この本文と同じジャンルに属する作品をあとから一つ選び、記号で答えなさい。

(2)この本文が収められた作品に成立した時が最も近いものをあとから選び、記号で答えなさい。

ア 枕草子 イ 万葉集 ウ 徒然草 エ 今昔物語集

Ⅲ 次のそれぞれの四字熟語の空欄に入る言葉を答えなさい。

- A 暗 () 模索
B 意気 () 沈
C 一網 () 尽
D 一 () 一夕
E 我田 () 水
F () 里霧中
G 大器晩 ()

Ⅳ 次の——線①から⑥の品詞をあとから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度使っても良い)

親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。①小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜ②そんなむやみをしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。③新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃したからである。④

(夏目漱石『坊っちゃん』冒頭部)

- ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 連体詞 カ 副詞 キ 助詞 ク 助動詞

国語解答

小計41点

二	2点×6問	シケン	促す	カシ	把握	クセイ			
a	真 剣	b	うながす	c	勘	d	はあく	e	達 成

一	ウ	2	ア	3	イ	4	エ
---	---	---	---	---	---	---	---

2点問
イ

3点問
高 校 生 の 時 に し て い た 勉 強

3点問
な ぜ 人 に 勉 強 を 教 わ る 必 要 が あ る の だ ろ う か

3点×5問
問六 エ 問七 ア 問八 エ 問九 イ

問十
ア

小計33点

三 3点問
エ

3点問
法 華 經 一 品 を よ み て

3点×3問
問三 エ 問四 (1) ア (2) ウ

3点×2問
問五 イ 問六 1 俗 2 沙弥 本枠完答 3点

3点×4問
問七 ウ 問八 イ 問九 (1) エ (2) ア

小計14点

三 2点×7
A 中 B 消 C 打 D 朝 E 引 F 五 G 成

小計12点

四 2点×6
① ア ② キ ③ イ ④ カ ⑤ ウ ⑥ ウ